

# 事業実施報告

開催日	キャンプⅠ：令和3年9月4日（土）～5日（日） キャンプⅡ：令和3年10月2日（土）		
事業名	防災キャンプ		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	キャンプⅠ：26名 キャンプⅡ：23名
対象	盛岡市・滝沢市在住の小学校3・4年生		
関係機関名	東京都立大学、岩手県、滝沢市、岩手県立野外活動センター		

## 状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

本事業は、防災・減災体験学習型の防災キャンプを実施し、自然体験活動の中で自らの衣食住を営んだり、コミュニケーションワークショップで他者とのかかわることを通して、自らのできることは自分で実行し、難しいことは互いに補いあうことの重要性に気づくことで、防災の基本となる「自分の命は自分で守る」「お互いに助け合う」という「自助」「共助」の意識を育むことを目的に実施した。併せて、令和7年度を目途に本事業のプログラムや評価方法をモデル化し、全国の青少年教育施設や関係団体に普及されるようにするため、事業内容や評価手法を試行した。

キャンプⅠでは、1日目は自助をテーマに一人でテント設営や野外炊事を行い、2日目は野外炊事やコミュニケーションワークショップを実施した。また、防災・減災行動計画を立案し、キャンプⅡまでに実施するようにした。キャンプⅡでは、防災・減災行動計画の取組状況を共有するとともに、多様性についての学びを深めるため、お年寄りや妊婦など、個別の配慮が必要な人々を想定した避難誘導体験を実施した。

本事業の成果としては、自助・共助意識の向上を目指したプログラムに関して、一定の妥当性が確認できた点である。本事業では自助・共助意識の高まりに焦点化するため、キャンプを2度実施するとともに、野外活動だけでなく、今まで行われてこなかったコミュニケーションワークショップや防災・減災行動計画の作成などの活動も実施した。その結果、地震などの個別の災害における具体的な対策だけでなく、災害に対する基本能力・態度（＝備え）に対する意識の向上が見られた。よって、今年度実施したプログラムが事業目的に対し概ね適切であると考えることができた。

一方、本事業の課題は、有効な評価方法が見いだせなかった点である。評価方法も普及を前提にモデル化を図るため、より簡便で誰でも使用できる方法として、防災・減災行動計画の実施状況及びキャンプⅡでの防災・減災行動計画立案状況で評価を行う予定であった。しかし、ほぼすべての参加者が上記2つを実施できたため、自助・共助意識の高まりを簡便に評価する方法としては機能しなかった。次年度以降は「キャンプで学んだこと」などのふりかえりの文章を観点別に評価するなどの質的評価や、防災・減災に関する行動の程度が事業前後でどの程度変化したかを質問紙で測定する量的調査など、事業の教育効果を正確かつ簡便に測定できる方法を継続して検討する必要がある。

## 状況写真



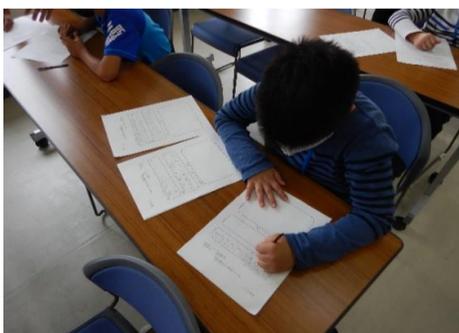
テント設営の様子



野外炊事の様子



コミュニケーションWSの様子



行動計画作りの様子



実施状況の共有の様子



避難誘導体験の様子

注1) フォントはMS明朝、12Pで統一すること。

注2) 状況写真は4～6枚掲載し、キャプションを付すこと。